

世界經濟會議の諸問題研究

(一) 一般的觀察 經三 K. N 生

(二) 爲替問題に就いて 同 K. I 生

(三) 關稅問題に就いて 同 T. I 生

(一) 一般的觀察

世界經濟會議は例の國際聯盟の發意により一九三二年七月ローザンヌに於ける獨逸賠償會議の一收穫として此の會議招集の件が決定されたのである。夫れは即ち賠償會議の最終協定第五項に「世界恐慌の打開策を講ずる爲め、國際聯盟主催にかゝる通貨及經濟諸問題に關する世界經濟會議を適當なる時期及場所に於て開催する。獨逸ベルギー、佛國、伊國、日本の諸政府は夫々二名の専門家を任命して夫等によつて經濟問題、財政問題を取扱ふ二種の専門委員會を組織する事とし、此の委員會に米國を招請すべく決定す」と記されてゐる。即ち此の協定事項に明示されてゐる如く、今回の會議は「世界恐慌の打開策を講ずるため」の會議であつて瀕死の資本主義にとつて歸死回生の名藥を調合する事が此の會議の使命である。以下によつて少しく述べて見よう。先ず順序として現時世界恐慌の特殊性並に其深刻化による重大性に就いて一應検討して見よう。第一特殊性、今回の恐慌も資本主義に必然不可避の恐慌——所謂無政府的生産（生産力の増大傾向）と對立的階級構成（購買力の縮小傾向）此の兩者の矛盾の爆發した恐慌であるが、其の廣さ、その深、又その長さに於て未曾有の世界的大恐慌である。此の恐慌の諸特殊性に就いてヴァルガの擧げてゐる點を茲に摘記すれば左の如くである。

「(A) 現在の經濟恐慌は——以前の恐慌とは違つて絶対に一般的である。此の經濟恐慌は凡ての生産部門及ブルジョア—世界の凡ての國を擧げてゐる。

(B) 此の恐慌は——工業生産の減退で測ると——殊に深い。此の恐慌は以前の恐慌のどれよりも深刻である。

(C) 此の恐慌は殊に長く續いてゐる。此の點でも今度の恐慌は凡ての以前の恐慌を凌加してゐる。

(D) 幾つかの國（イギリス）では恐慌は景氣亢進のあとにつなが來たのではなくて慢性的不景氣のあとに來た。

(E) いくつかの生産部門では（石炭、造船、纖維）恐慌は景氣亢進の後に來たのではなくして何年も前から續いてゐた不景氣のあとに來た。

(F) 非常に猛烈な併し極度に不揃ひの物價下落。

(G) 外國貿易の異常に強度な萎縮」

（世界經濟年報第十三輯四〇一四八頁）

茲に特に注意すべきはA,B,C.の三主要特色の基礎には工業恐慌と農業恐慌との交錯が就中重要なる原因となつてゐるのである。（河西教授ノート）

上述の如き特殊性に基づく深刻化が如何に現情勢を重大ならしめてゐるか之に就いてローザンヌ協定によつて出來た専門家準備委員會作成の世界恐慌打診報告書によつて見よう。即ち（一）未曾有の失業——國際勞働事務局最近の推定によれば失業勞働者は少くも三千萬人を下らず。併し之の尨大なる數字も勞働者の家族其他の扶養者を除外してゐるので三千萬と云ふ數字も未だ見積過少と云へる。かくの如き生産の生む固苦と頽廢の重壓こそはまことに恐るべきものである。

（二）商品價格の暴落——金で表示された、卸賣商價格は一九二九年十月以來約三分の一方低落し、原料品の價格は五割乃至六割の低落をなしてゐる。ウイベツクの小麥價格は、一九三二年十二月半ばに過去四世紀中の最低水準に落ちて了つた。かうした物價の激落は、經濟機構を根本的に攪亂せすば止まない。

（三）滞貨の累積——農産物其他原料品の世界的滞貨は依然として増加してゐる。一九三二年の滞貨指數は一九二五年の二倍になつた。此の尨大な滞貨は主要諸市場を壓迫して、物價の順調な回復を妨げてゐる。

（四）工業生産の後退——工業生産は驚くべき後退を示し、資本設備の生産事業に於て特に甚しい。その深度がどこまで達してゐるからの適例はアメリカの製鋼事業の狀態である。即ち一九三三年未作業率は生産能力の僅か一割に過ぎなかつた。

（五）貿易の激減——商品の國際的移動は通貨の混亂によつて妨げられ、政府の多くの新干涉（關稅障壁）に制限され、信ぜられぬ程の低水準にまで減退して、三年間は減退する一方であつた。

（六）財政の窮乏——以上列舉せし原因による國民所得の低下は四割以上に及ぶと推定されるその結果破府の歳入著しく減退したが支出の方はそれに相應する減退を示さない。豫算不足の繼續は不可避の結果であつた。

（七）幣制の世界的紊亂——現在自由且つ無統制な金本位制を維持してゐる國は一、二である。以上の如き恐慌圖を眺めて破局的狀態でないか誰か考へ得るであらうか？

斯くの如き情勢の下に於て開催される世界經濟會議が世界的大恐慌をよく克服し再び世界をして資本主義を謳歌せしめ、世界平和を招來する事が若し假りに可能であると推斷して此の會議の結末如何は過去の國際會議には見られざる重大意義を持つものである。即ち經濟會議に於て解決せんとする問題を満足に解決し得たならば資本主義經濟の前途は再び光明を認めその躍進が期待されるであらうが、此の反對に會議が全然失敗に終つた場面を

想像すればブロック經濟或は孤立經濟に世界は硬化し今日より以上の激然な經濟戰が展開され、その經濟戰の終局は他自共に傷付き、資本主義經濟の解体となる恐れなきを保し難い此の意味に於て世界經濟會議は資本主義の再生か又は夫れの死滅かの分岐點をなすものと見られ得るであらう。

(二) 爲替上の困難から見た世界經濟會議

未曾有の世界的恐慌を克服し様と云ふ世界經濟會議の矢は既に發せられた。其の成行の如何は吾々の豫想だに及ばない處のものであるが今日に於て最も問題になつてゐるには金本位停止國と金本位維持國との間に横はる爲替の問題であると思ふ。この會議の議題に依れば各國は自由な金本位國に歸る事。これに依り世界の通貨不安や爲替動搖も避けられる従つて金本位を離脱して居る國は爲替を引下げる事なくインフレーションを避け金本位に歸る事である。若し各國が歐州大戰前の如く自由な金本位國となつたら各國の通貨の値打は金の値打と結び付けられて安定する。亦各國間の爲替相場も自然安定して来る。爲替相場が安定すれば外國との取引もやり易くなる。故に自由な金本位への世界的回復はこの世界的不況打開には無くてはならぬものとして重要議題の一となつたのである。英米をはじめ四十數ヶ國の金本位停止され列國の爲替相場が不安定極まる状態に放任されると云ふ事は實に危険である。世界經濟は國內的にも國際的にも根據のない動き方をする。事業の基礎や通商の土臺は安定のない相場の上に建てられるので前途は全く暗黒化し、さらに列國の爲替引下げ競争は關稅の對抗と相俟つて國際通商の破壊にまで導く。列國は各自の自衛上爲替の低落を望んでゐるが各國がかかる状態に置かれては根本的打開の道が無くなつて来る。其處で列國間に爲替協定を成立させれば最も良き解決案であると思ふ考の下にワシントン會商で出て來たのが國際爲替均衡協定である。

然し乍らこれは非常に困難な問題である。いざ實行となると各國の利害關係や各國それぞれ特殊な財政經濟事情から國際間の爲替相場の一定の完全な比率を決定するには大なる困難があるから爲替の協定が國際經濟安定の根本問題になるに就ては異存がないがお互に列國に都合のいい爲替比率を求める以上決して解決の出來ない問題であらう。今假りに日米間のみに於ける爲替比率の協定を行ふとした處で今後の吾が國はなほ十億圓に近い赤字公債の増發を必要としてゐる。滿蒙經營の目鼻がつくまでは將來幾程の國費を要するかの見透しさへつかない。

徹底した財政改革を行ひ難い現状に於て國家財政の破綻は益々大となるであらう。亦吾が國際貸借關係もよくない。吾國には英國の如き爲替平衡基金がない。かかる危機に資金限度を増して多少の對抗力をこさへる程度のもので爲替の絶對安定は行ひ難い。對外的に見ても世界經濟の歸趨が全く判らない。今後米國の財政政策がどの程度のインフレーションを招致するか。従つてニューヨーク市場に於て米日爲替の基準となるべき英米爲替の前途が不明である。故に圓とドルとの比率だけで約束しても實行性が困難であるかと判る。況んや世界の爲替比率協定をやである。例へ何等かの方法が金本位復歸に依つて成功し得たとしても、今や世界は資本主義の自然調節性が破壊せられてゐる。亦資本主義の意味に於て世界の生産裝置は過剰で他國品の排斥が益々加はり資本過剰國から過小國への資本移動が色々の意味で永続されない。こゝに亦金の偏在が起り、金本位の苦痛がやつて來るであらう。併しこの事は先きの問題である。今や世界の大きな期待を待つ經濟會議の戦や酣である。會議の成行如何は吾々の豫想だに及ばない處であるが吾々はこの會議の推移から目を離してはならないものである。この會議から何が生れるか。これは終りを待つのみである。

(三) 關稅問題からの見地

世界經濟會議の議題の一つとして關稅問が擧げられて居る。本問題は議題の何れの問題とも有機的な關係を有して居るので關稅問題唯一つを別個に切離して對策を樹立し得らるべき性質の物では無い、従つて本問題は各國の爲替との關係通貨との關係、貿易問題との關係等勿論生産關係とは密接なる状態に置かれて居るのである。一國の生産が決して自國のみの市場を相手とするのでは無く世界市場を目標とし行はれて居る今日鎖國的經濟政策即ち關稅壁の徹廢又は緩和は望む處なのである。然し何が故に鎖國的關稅壁を造るに至つたかの問題を究明する時は本問題の解決は相當困難を豫想出来る。

原因 一、世界の金本位停止に依る爲替暴落の結果、一、赤字財政の穴埋め爲、一、各國の貿易條約の破棄、一、自國産業救済の爲、(米國品種八百八十餘種に高率平均引上率二割弱) 一、戰債賠償問題解決の一方法として持た物、其の結果、關稅壁の障礙は國際貸借を益々惡化した、そして自國産業を萎縮させ、國際感情の刺戟となり、貿易は萎縮し、相互共存共榮の根本の破壊となり自國商品も賣れなければ他國商品も買はぬ事になり國家主義的鎖國的即ち頭が大きく足の小さい奇型兒經濟を取らねばならなくなつた。

其れに對し各國は如何なる對策を取つたか、一、爲替を通し一種の貿易管理、統制を實施したもの、國際貸借を改善し自國産業を保護し様としたもの「日本、アルゼンチン、ブルガリヤ、デンマーク等々」二、更に貿易の徹底的取締のため輸入獨占の規定を持て國際貸借の惡化を防ぐ國が表はれた。「フィンランド、ラトヴィヤ、オーストリア、ベルシヤ等々」三、最も嚴重なる物は輸入禁止を斷行し自己の産業を脅威する高品に限り海外から輸入を絶対に許さぬ事、「イタリー、ポーランド、アイスランド等々」四、自國産業を壓迫する商品に對しては新しい國內税を賦課してこれを壓迫し輸出を獎勵する一方輸入防止の政策を品貨受用運動を對て坑したもの、「ベルギー、イタリー、カナダ、スペインチエニスロバキヤ」

例。英國の關稅同盟……（オツタワ會議の規定）差別關稅同盟……（自國品には輕減する）關稅ブロック……（印度の日貨ボイコット）印度産業保護政策……（ランカシヤの紡績保護）關稅及び協定政策問題、各國の互讓的精神さへあれば案外解決は容易かも知れない。今日の鎖國的經濟政策に於いては一波は萬波を生じ世界をしてまさに戰爭の危きにまで追やつて居る。

英印兩地の對日通商條約の如き、さてはトルコの通商條約破棄、インドのダンピング税、支那の互惠條約期限と共に廢議の如き世界經濟會議を前にして眞に容易ならぬ事態が展開してゐる。此の時世界經濟會議の準備委員會は現下の工業狀勢の不安定、對外決濟の困難及び現在の國內秩序を危くする如き過度の輸入の可能の爲現存の關稅障壁の引下を嫌忌する國のあることを疑はないけれども關稅の引下は世界經濟回復の鍵であることを述べて財政及貨幣狀態の一般的から耐久的改善と共に相俟つてこれが實現を期しその内容を、A.關稅政策（一）關稅引上の停止。（二）關稅引下。（三）關稅問題の特殊の局面。（四）手續方法。B.最惡國條款。（一）恒久的例外。（二）暫定的例外、等であるが之等の内の一つ即ち休日案の如きは問題となりたるが如きは前途樂觀は豫想だにゆるさないのは吾人の尤も残念とする處である。今日に於ける關稅稅戰の激化は世界經濟會議を目標としての駈引と云はんよりは在來關稅戰其のまゝの繼續と見られる。關稅引上は物價の下落を人爲的に阻止する役割を演じ、國民の購買力を削ぎ、經濟的にも、社會的にも、色々なる影響を與へつゝある。しかも之が撤廢に到らず反對の傾向をとりつゝあるは、現在經濟機構の高度化の段階に於てその性質がしからしむるものでは無からうか？ 各國が自國の都合的立場を固持しての經濟會議は、相當其の成行は憂慮すべきだろ——。紙面の都合上照細に書く事の出来なかつた事は各自の尤も遺憾とする處である。

事業經過報告

一、毎通水曜正午定期委員會續行、二、新入會員選舉並びに新入生歡迎會五月八日その結果當選者左の如し、湊正雄君、千葉久君、茂木英三郎君、土肥繁雄君、野澤君の五名、以上の諸氏を迎へ學會特に活氣を呈す。諸氏の奮闘を望む。三、學會の總會、五月二十六日（金）開催、四、講演會同日開催、講師東洋經濟新報社主筆石橋湛山氏、演題「世界經濟會議に我國は何を主張すべきか」講演會並びに總會は創立以來比を見ざる盛況を呈し學會一同大いに感喜す、五、研究會、本學期は金融問題研究會（竹村教授指導）毎週月曜開催 農業問題研究會（河西教授指導）毎週火曜開催、特に金融問題は多くの聴講者を擁し活況を呈す、學生諸兄のよろしくどしどし聴講あらん事を切望す、一、立教祭に参加す、六月十二日（月）十五番教室に於て吾等學會研究の一端を觀衆に供覧し得る處少からず、一、

★寄贈圖書

毎度御送り下さる事を有難く感謝いたします、御芳名 高商論叢（明治學院）、徳川時代の商人カルテル 彦根高商）、稻門經濟（早大經濟學會）、経友（帝大経友會）、立命館學誌（立命館大學）、二度高商學討究（小樽高商）

編輯後記

第三卷第一號も諸兄の熱烈なる援助により此處に發刊する所となる、吾等學會委員のクォーターリ發刊豫定は本月初旬なりしも立教祭及同志社大學交歓大會の爲め止むを得ず遂に今日に延期せざるを得ざりし遺憾とする者である、當學會は部外團體の爲、豫算卡下附されず財政上の困難を伴ひ爲めに活動を制約される事諸兄の御承知通り何分にも御助力を乞ふ、次ぎに特に會員一同と共に喜びとする處は學生大衆よりの優秀な論文多數集まり掲載し得た事である、此處で各論文に付くの贅言を省き全般的に渡つて諸氏の努力の結晶を見出し得る今後も充分なる研究と思索とな重ねられん事を望む、終りに夏期休暇中諸兄の健康を祈り來學期の論文に備へられん事を御頼ひする、

（滑川）

昭和八年六月二十印刷納本
昭和八年六月二十日發行

第四號

（定價拾錢）

東京市豊島區池袋立教大學内

編輯兼

發行人

木村正平

東京市豊島區池袋一ノ五〇八番地

印刷人

太田清次

發行所

東京市豊島區池袋立教大學内

立教大學經濟學會

電話大塚四〇四番